

## 文京区主催 朗読コンテスト「森鷗外を読む」報告

● 渡 部 英 美

### 内容概略

朗読コンテストは、文京区が主催し跡見学園女子大学の主管で行っており今年度で11回目となった。これは学科の学びを生かした活動の一環である。

令和4年は、文京区ゆかりの明治の文豪、森鷗外の生誕160年、没後100年にあたる年となった。今年の課題作はすべて森鷗外の作品で、「青年」「高瀬舟」「舞姫」「最後の一句」「雁」「山椒大夫」の6編のうちから選択することとした。課題すべてが森鷗外で占められるのは、平成24年度第1回文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」に続いて2回目となる。(鷗外生誕150年に当たる年であったため)

事前録音審査は令和4年9月15日と16日に実施した。応募256人の中から青少年、一般の部合わせて決勝進出のメンバーを選んだ。(一般財団)NHK放送研修センターに審査の協力を依頼した。

コンテストは令和4年11月13日(日)午後1時から、跡見学園女子大学ブロッサムホールで実施した。青少年の部は当日23歳以下であることが条件である。一般の部はこれ以外の誰でも参加できる。事前の録音審査を経て17名(うち当日欠席:一般の部1名、青少年の部1名)が、当日の跡見学園女子大学文京キャンパスのブロッサムホールのステージに臨んだ。当日の観客は113人であった。冒頭、成澤廣修文京区長が祝辞を述べるとともにこのコンクールに期待を表明した。審査委員長は元跡見学園女子大学教授で元NHKアナウンサーの広瀬修子氏。審査員はこれまでの伊藤文樹氏に代わって、今年からNHK放送研修センター専門委員の高橋敦之氏が担当することになった。文京区からは、教育委員会教育指導課指導主事の上野義博氏が審査員を担当した。当日の審査においては森鷗外の研究者としての専門的な立場から小仲信孝学長が立ち合った。

参加希望者は、8月29日から受け付けたが、初日で定員の200人に達した。都内や近県の他、北は北海道、南は鹿児島県など全国からの応募があり、このコンテストの信頼性の高さとともに事業の定着を裏付けた。跡見学園女子大学からは6人の学生が応募した。当日の司会で朗読の授業を担当している八柄順子兼任講師の講座でも参加を呼び掛けた。大

会を前に8月4日午後、文京キャンパスの教室を会場に、参加希望者向けにワンポイントアドバイス講座を行った。この内容をオンデマンドで配信し学内に周知した。

### 課題作一覧

作家名	作品名	参考書籍	頁	指定箇所（読み始め～読み終わり）
森鷗外	青年	新潮文庫『青年』平成24年1月20日94刷	75～76頁	一体日本人は生きるということを～増しかも知れないと思う位である。
森鷗外	高瀬舟	新潮文庫『山椒大夫・高瀬舟』平成25年4月25日88刷	257～258頁	庄兵衛は今喜助の話を聞いて～大いなる懸隔のあることを知った。
森鷗外	舞姫	新潮文庫『阿部一族・舞姫』平成20年6月10日79刷	14～16頁	今この処を過ぎんとするとき、～恥ぢて我側を飛びのきつ。
森鷗外	最後の一句	新潮文庫『山椒大夫・高瀬舟』平成25年4月25日88刷	245～246頁	この時佐佐が書院の敷居際（ぎわ）まで～引き取れ」と言い渡した。
森鷗外	雁	新潮文庫『雁』平成20年10月5日111刷	129～130頁	お玉の目はうっとりとしたように～取留のない処（ところ）に帰着してしまった。
森鷗外	山椒大夫	新潮文庫『山椒大夫・高瀬舟』平成25年4月25日88刷	185頁	炉の向側（むかいがわ）には茵（しとね）三枚を畳（かさ）ねて～袋から出した仏像を枕元に据えた。

※コンテストの結果は以下の通り。

### 青少年の部入賞者一覧

賞	氏名	朗読作品	居住地
最優秀賞	島津歩実	舞姫	群馬県高崎市
優秀賞	平田慧	青年	東京都町田市
優秀賞	松永紗朱花	最後の一句	三重県いなべ市

※青少年の部は23歳以下の方

#### 一般の部入賞者一覧

賞	氏名	朗読作品	居住地
最優秀賞	小池千晶	雁	東京都文京区
優秀賞	須藤えりか	最後の一句	東京都西東京市
優秀賞	村上征夫	高瀬舟	大阪府三島郡

引用：文京区ホームページ「朗読コンテスト」より  
<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/museum/>